

## 発掘調査の概要

### キトラ古墳の調査（飛鳥藤原第173-8次調査）

奈良文化財研究所では、2010年6月にキトラ古墳の石室内調査を実施し、石室の構造や石材の状態、朱線や棺台痕跡の残存状況等を精査し、記録作業をおこないました（飛鳥藤原第170次調査）。しかし、石室南壁の盗掘孔には石室に入るための進入装置が設置してあったため、装置に覆われた部分については、十分な検討ができませんでした。

そのため、今回は進入装置を取り外し、盗掘孔周囲を中心に調査を実施しました。期間は2013年2月18日から27日まで、調査は奈文研、奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会の3機関が共同でおこないました。

調査では、石材の形状や、表面に残る加工痕跡、石材相互の組み合わせ方等を精査し、実測、拓本、写真撮影、3Dレーザー測量等様々な方法で詳細な記録をとりました。これにより、2010年度の調査成果とあわせ、石室内全体の記録が揃いました。

また、今回は、2010年度調査の時より石室内の状態が良好であったため、新たに50カ所以上で石材に描かれた朱線の残存部分を確認できました。これまでの成果もあわせ、同一直線上にのるものを1本として算出すると、確認できた朱線は合計で24本分になります。これらの朱線は、石材を加工する際の基準として用いられたと考えられます。

今回の調査で、キトラ古墳の石室内についての調査は最後になります。今後は、石室閉鎖および古墳の整備へと移っていきますが、今回得られた新知見やデータを、今後の整備・活用に役立てていきたいと考えています。（都城発掘調査部 若杉 智宏）



3Dレーザースキャナーによる測量